

生涯体験活動のすすめ

⑫

ぼくは次のように問うてみたい。社会教育って何だろか。教育された人っているの？ 指導された人っているの？ この世の中、親でも教師でも、相手を教育したい人、指導したい人ばかりが目立つ。それゆえぼくには、社会教育の「教育」という言葉がどうも変に感じられたり、青少年指導者の「指導」という言葉が空々しく感じられたりする。

在日韓国人に日本語を教えるボランティアをやっているある学生が出席ペーパー(拙著『生涯学習か・く・ろ・ん』『こ・こ・ろ生涯学習』参照、ともに学文社)に、次のように書いてきた。

「時間をあせて答を教

えてしまったところ、オモニ(ハングルでお母さんのこと)に「私が学びたいのです」と叱られてしまった。

感動と納得を体験

ワンダーランドとの出会いこそ

そこでmitoちゃん(ぼくのこと)のいう主体性の意味に思い当たりました。

でも、それでは教える私の主体性はどこにあるのでしょうね。この学生のようにちゃんと悩んで教えた、指導したりするのなら、その教育や指導は歓迎されるのではないか。

それにしても、そのオモ

二「私が学びたいのです」という言葉こそ、社会教育の原点であり、体験活動の意義を如実に示す言葉でもある。

ふと山を見て、きのうまでの自分とちよつと変わるというまよな偶発的学習を舍めて、みずからの感動、納得を伴う学習をぼくは

やない！ 体験活動を含めてこつというワンダーランドを日々味わうことを生涯学習という。生涯学習とは、自分の人生を大切にしていかに生きることであり、社会教育もまたその一環である。あなたはこれの一週間であ

いくつらいのワンダーランドと出会ったのだろうか？

昭和音楽短期
大学助教授 西村美東士



つぎに、人との出会いの体験について述べたい。社会教育・生涯学習の援助に

おいては、発達・成長だけではなく、癒し・安らぎを大切にすることがある。

「ぼくが宇宙で一人だけで生きているのなら、もっと自分らしさを守れるのに」という出席ペーパーがあった。人間存在というものの

切ない否定的真実を的確に言い表した言葉だ。

しかし、勤労体験学習やボランティア体験学習などには、これを上回る人間の肯定的真実がある。「あなたがいなくてよかった」ということを伝えてもらう

体験(ストーリー)は、体験者にしかわからない至福のワンダーランドである。そして、これらの出会いが、つぎのテーマを確信させてくれる。

個は他者と関わることによってより深まる。人によって傷ついた心は、人によってしか癒せない。

このような自己肯定的出会いと気づきの体験が、「他者がいてくれるから、わたしはますます自分らしさを守り育てることができ」という、もうひとつの

真実のワンダーランドの幸せを味わわせてくれるのである。